

令和8年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	地域力創造部
役職	部長
氏名	福岡 秀明
連絡先	0595-22-9623



業績目標の標語(指導者評価)
 目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)
 目標としていた達成水準に到達した(100%)
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)
 目標達成のための取り組みが見られなかった

業績目標	表題	現状や課題	達成水準 (どこまでできれば達成したといえるか)
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No. 4-6②	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住コンシェルジュによるきめ細やかな相談の実施 ・移住セミナーや空き家ツアーの実施 ・都市部で開催するイベントでのPR活動 ・移住者交流会の実施 ・地域おこし協力隊の活用 ・市内公立高校3校、私立高校2校との連携 <p>〈現状分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度より、若者・子育て世帯を対象とした支援制度を開始したことにより移住者増加につながった。 ・令和6年度より若者の交流の場を提供する団体等を支援し、交流拠点を維持することにより、これまでの行政・高校等に加え地域ぐるみで若者育成を行うパッケージ化ができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少していく中、移住者の獲得は自治体間で競争となっているため、他に先駆けたプロモーションや移住施策に取り組む必要がある。 ・若い世帯の人口流出に歯止めがかかっていない。 	<p>〈目標数値〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規相談件数253件、移住者数144人、世帯数91世帯以上とする。(令和7年度の実績以上とする) ・高校生へのアンケートの項目「高校又は大学等卒業後の生活、勤務地」について「出身地」の回答率(18.9%)を令和7年度以上とする。 <p>〈達成された状態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住を促進し定住人口の増加を図ることにより、地域の新たな担い手となり活力ある地域づくりが推進される。 ・若者の定住意識を高め、大学等卒業後にUターンしている。 <p>〈手段・工程〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンシェルジュによる移住相談や移住前から移住後まで切れ目のないサポート ・移住者同士を繋げる移住者交流会の開催 ・都市部での移住相談会等の実施 ・空き家見学ツアー等の実施 ・SNS等を活用した情報発信 ・若者や子育て世帯を対象とした中古住宅取得費補助や家賃支援を行う ・高等学校における人材育成事業を推進し、地域に誇りと愛着をもち、自らが地域の担い手となる意識を持つ人材育成を図る
若者や移住者に選ばれるまちをつくる	移住・定住を促進する		

達成状況 (自己評価)	理由

◎部局目標2	関連の施策・基本事業No	3-6①	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊賀市文化振興条例及びビジョンを踏まえた伊賀市文化振興プラン(前期実行計画)を策定し、文化振興審議会で進捗管理を行っている。 文化・芸術活動の拠点となる伊賀市文化会館などのホール施設について、管理運営に取り組んでいる。 <p>〈目標が達成された姿〉</p> <p>市民誰もが文化芸術にふれることで、次世代にも文化芸術を愛する心が継承されている。それとともに施設が有効活用されることで活発な文化芸術活動が展開されている。</p> <p>〈現状分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化振興プラン後期計画の策定に向け、庁内会議や文化振興審議会で検討を重ねている。 文化振興事業の実施を含めた指定管理を行っている。 文化会館等施設の設定等の改修を随時行っている。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化振興プラン推進の取り組みによる市民の文化芸術意識の向上など成果がわかりにくい。 市の文化施設が経年劣化により修繕箇所が増えている。大規模改修が必要となってきた施設もあり、施設の今後のあり方の方向性を定めていく必要がある。 伊賀市で活動しているアーティストと地域との間に協働の場がほとんどない。 	<p>〈目標数値〉</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりアンケートにおける文化芸術の満足度が44.5%(令和7年度)以上となる。 令和5年度:46.6% 令和6年度:49.2% 令和7年度:44.5% 文化ホール、ミュージアム青山讃頌舎、岸宏子記念伊賀文学館の利用者数が60,153人(令和7年度)以上。 令和6年度:70,171人 令和7年度:60,153人 榊莫山生誕100年記念展覧会来場者数1,500人以上。 市文化施設再編整備計画策定委員会を立ち上げる。 <p>〈手段・行程〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者・関係団体と事業を検証し、企画に反映させるとともに、参加・参画する市民の意識向上につながるよう情報発信を工夫する。 榊莫山生誕100年記念展覧会を開催し、郷土の芸術家足跡を通して伊賀の文化を広く市民に知ってもらおう。 地域のアーティストの掘り起こしを行い、協働の仕組みづくりの検討を行う。 市内文化施設ごとの機能分担および整備の優先順位等について、総合的な検討を行う。 		
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No	2-3①	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スポーツ推進計画」に基づき、市民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむ機会を創出するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体の活動を支援してきた。 <p>〈取り組み目的〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民のライフステージに応じたスポーツ活動を生活に取り入れ、生涯にわたり健康で豊かな生活を送れるようなスポーツ環境をつくる。 <p>〈現状分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022(令和4)年6月に伊賀市スポーツ推進計画を策定し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点から、様々な取り組みを進めている。 地域や団体が実施するスポーツ、運動行事へ伊賀市スポーツ推進委員を派遣し、実技指導を行っている。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 成人の週1回以上のスポーツ実施率が目標値に達していない。(目標65.0% R7現状43.1%) 情報提供において更なる発信や新たな方法を検討する必要がある。 トップチームを身近に感じてもらい、地域の資源として捉え、地域の活性化につなげていく必要がある。 	<p>〈目標数値〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市主催のスポーツ事業(市民スポーツフェスティバル)のエントリー数が、1,008人(令和7年度実績)を上回る。 スポーツ推進委員派遣事業について、地域・企業等への派遣が、36団体(令和7年度実績)を上回る。 <p>〈達成された状態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域でのスポーツ活動やレクリエーションスポーツの普及啓発により、体を動かす機会が増えている。 <p>〈手段・工程〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や企業が実施するレクリエーション大会等へアウトリーチ事業としてスポーツ推進員を指導者としてさらに派遣し、併せて地域おこし協力隊が新たなスポーツイベントの企画・運営を行うことで、市民が体を動かす機会を創出する。 スポーツへの関心や主体的な取り組みを高めるため、市広報やHP、Facebook等の媒体を活用し、スポーツ情報や話題の発信を行う。 地域スポーツの裾野が広がるよう、国内のトップリーグなどで活躍する個人及びチームを支援するとともに、地域との交流促進を図る。 		

◎部局目標4	関連の施策・基本事業No 2-11④	<p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊賀線の経営安定化のため、平成29年度から公有民営方式とし、以後は鉄道事業再構築実施計画に基づき運行している。伊賀鉄道の営業損失補填、鉄道施設の維持管理のほか、様々な利便性向上、利用促進の取り組みを実施している。 <p>〈取り組み目的〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊賀市公共交通の背骨である伊賀線を永続的に維持することで、市民と来訪者の移動手段を確保する。 <p>〈現状分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 通勤利用と定期外利用は減少傾向が継続している。 通学利用はコロナ禍前を超えているが、学生数減少により将来的には減少の見通し。 輸送人員 <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度:1,117,983人/年 令和6年度:1,163,669人/年 令和7年度 1,184,077人/年 物価や人件費の高騰により、保守・運営にかかる経費が増加している。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会経済情勢の変化による、利用者数減少や経費の高騰への対応。 伊賀線自体の地域資源としての魅力の創出。 伊賀市のまちづくりの一環としての伊賀線の活用。 現行の鉄道事業再構築実施計画期間後の運営計画や体制の構築。 	<p>〈目標数値〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊賀鉄道年間輸送人員数が令和7年度実績以上となる。 伊賀鉄道の年間旅客運輸収入が令和7年度実績以上となる。 <p>〈達成された状態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道事業再構築実施計画に沿った取り組みが着実に実施されている。 運営に係る新たな増収施策や、経費削減施策が図られている。 <p>〈手段・工程〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全性確保のため、鉄道施設の保守・更新工事を計画的に実施する。 さまざまなイベントを通じ、地域資源としての魅力を発信する。 次期鉄道事業再構築実施計画について関係機関等と連携し、策定業務を進める。
--------	--------------------	---	---

バスや鉄道をみんなで支える

伊賀線を維持する



--	--